

第4回宮古市中心市街地拠点施設市民検討委員会 議事録

1. 日時 平成26年11月19日（水）午後3時～午後4時20分
2. 場所 宮古市役所分庁舎 3階 大会議室
3. 出席委員 13名
北原啓司、赤沼正清、林本卓男、伊藤和榮、山下修治、佐香英一、高橋雅之、
横田大樹、鈴木光子、上野けい子、佐々木慶子、金野侑、平藤一氏幸
4. 事務局出席者 8名
総務企画部長 佐藤廣昭
企画課長 山崎政典
同課市街地施設推進室長 岩間健、同室主任 竹田真人
都市整備部都市計画課復興拠点整備室長 多田康
同室主幹 高橋正浩、主査 畠中憲一郎、主事 中尾和子
（委託業者）
パシフィックコンサルタンツ株式会社 3名
株式会社千代田コンサルタント 2名
5. 傍聴者 3名
6. 議題 （1）宮古市中心市街地拠点施設整備事業・基本計画（骨子）について
（2）市民ワークショップの開催について
7. 議事録（要旨）

（1）宮古市中心市街地拠点施設整備事業・基本計画（骨子）について

主な意見及び質疑事項
意見・質疑 ・構成案を見ると、市役所跡地の利活用計画を掲載する項目がないと思われる。中心市街地活性化との関連性については、委員の皆さんからも多く意見が寄せられた。構成を修正し、それらを反映する項目を設けるようお願いしたい。
回答 ・了解した。
意見・質疑 ・市民ワークショップも必要だと思うが、商店街や商工会議所商業部会でも、勉強会や意見交換の場を設けている。それらを反映する場を設けて欲しい。市庁舎の建設だけで終わってしまわないよう、利害関係がある団体と意見交換などが必要。
回答 ・了解した。
意見・質疑 ・例えば、防災・地域活力創出拠点施設には、「災害伝承機能」とあるが、それは施設に必要な機能か。全ての機能をこのエリアに集中させてしまうと、一極集中してしまい、人の流れが滞り、交通渋滞も引き起こす。例えば、子育て支援機能を商店街に設けるなどの分散化を検討して欲しい。

意見・質疑

・資料に掲載された機能は、導入が考えられる機能として整理したもので、全てを拠点に組み込むということではないと理解したい。分散化の可能性も含めて、今後検証してほしい。

意見・質疑

・機能について、まずは「防災・地域活力創出拠点施設」「市庁舎」「保健センター」の施設ごとに整理し、施設に単独で当てはまらない項目を「その他（共通事項）」として整理しているが、ここに書いてある事項、特に「中心市街地活性化機能」は、施設を作る上で重要な概念を含めて記載している。「その他」の括りで整理すべき項目ではない。

回答

・原案は各施設に限定した構成となっている。エリア内での拠点施設の役割について整理し、その後で施設の整備方針をまとめていくよう修正したい。また、その他の記載事項、特に「⑤シンボル機能」「⑥中心市街地活性化機能」については、ご指摘のとおり「その他」とせず、構成を修正したい。

意見・質疑

・「ハコもの作り」は止めて欲しい。資料に、気仙沼市の「リアスアーク」を参考として写真掲載しているが、そのような施設は必要ない。ある程度、機能の分散を検討しないと、本来の交流にはならず、交流が滞る。必要最小限の面積で整備して欲しい。

また、15pの「中心市街地活性化機能」は、説明の文末が、「検討します」「目指します」、その他の機能の掲載では、「計画します」となっており、比較すると表現が弱い。必要な事項なので、「計画します」等の表現に訂正した方が良い。

回答

・表現を修正したい。

意見・質疑

・他の整備事例を見ると、紫波町の「オガールプラザ」は官民連携施設として、国の補助金に頼らない整備をしている。民間・公共の連携が図られた施設を「街なか」に置かないと、一極集中し「まちの空洞化」を引き起す。外での交流が発展しない。

回答

・紫波町の例は、補助金を使わない代わりに民間資本（東北銀行）を活用している。東北銀行に日銀から、そのスキームを教えて欲しいと要請があったようで、全国的にも先進的な事例と言える。ただし、紫波町の場合は、民間施設の一部に公共施設が入るという仕組みをベースとしており、今回の整備とは手法が異なる。

商店街との意見交換や市民ワークショップを通して、拠点施設に必要な機能を絞り込む必要がある。全てを集約するのは、不可能と思われる。

長岡市の「アオーレ」の例を見ると、都市計画、福祉、商業の担当部局は、それぞれにメインの建物から離れた場所に設置されている。空きビルを活用したもので、まち全体を市役所、市役所の廊下がまちの道路というようなイメージである。人の流れを考えると、一つの建物にすべてを集約することは、デメリットもある。

(2) 市民ワークショップの開催について

主な意見及び質疑事項

意見・質疑

・市民ワークショップの支援をさせていただくことになった。私自身も、このような会議の場で意見を述べるのを恐縮してしまうが、ワークショップでは若い世代が小グループで討論することで、それぞれの思いを引き出せると思う。意見が出しやすい環境を作れるよう、例えば、席の作り方を「コの字」「ロの字」ではなく、グループごとに分けるなど、場のセッティングに配慮していきたい。

回答

・若い世代というと奇抜なアイデアを出すと良く想像されるが、案外突拍子もない意見を出すのはお年寄りが多く、若い世代の方が現実的な発想をするケースも多い。最初は、40人から50人程度でスタートするが、最終的には、参加者相互の呼びかけなどで70人程度に増えていることを期待したい。

質疑

・先日、事務局に中央通商店街振興組合の朝会に参加していただき、事業説明をしていただいた。

商店街では、独自のアンケートを実施した。跡地活用などの回答は、市で実施した結果と少し差がある部分もあるので、参考にしてほしい。

回答

・了解した。

【北原委員長より】

今回は、機能の配置アイデア等を具体的に提示するなど、委員が議論するポイントを整理して、委員会に臨みたい。事務局には、事前の資料送付をお願いしたい。

【事務局より】

宮古小学校の5年生が、授業で「市庁舎の跡地活用」に関して学習し、10月の学校公開で、それぞれ考えたアイデアを発表したり、意見をまとめたりする授業を行った。先日、市にまとめた成果の報告があったので、本日、会場内にその成果品を掲示している。

次回第5回は、12月19日15時、シートピアなあと2階研修ホールを予定する。

以上、閉会。